

第6回 北部地区街づくり協議会 議事録

開催日時	平成30年2月22日(木) 18:30~20:00
開催場所	櫛本公民館 大会議室
出席委員	委員 13名
欠席委員	福西委員、大森委員、桐山委員、植田委員、中西委員
事務局	総合政策課3名、産業振興課3名、農林課1名
議事内容	
<p>1. 開 会 -18:30-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>会 長</p> <p>みなさんこんばんは。本日は第6回の北部地区街づくり協議会ということで、委員の皆さま方には年度末も近づいてくる中で、大変お忙しい中ご参集くださりましてありがとうございます。櫛本校区の最近の勢いは素晴らしいものがあると改めて感じております。夢応援プロジェクトをはじめ他のプロジェクトについても注目が集まっています。蔵之庄町のトラックマルシェなどにも繋がって来ているものだと感じています。成績についても良い形で上がってきておりまして、地域の活気というものが子ども達のやる気に如実に繋がってきているなど実感しております。本日は進捗めざましかった今年度の動きを振り返り、来年度に向けていい形で北部地区が進んで行くような有意義な会議にしていければと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>3. 議事録の承認</p> <p>第5回協議会の議事録につき、異議なく承認された。</p> <p>4. 議 事</p> <p>以下、議事進行は会長が進める。</p> <p>(1) 地元連携</p> <p>会 長</p> <p>地域総活躍まちづくり提案事業助成金を活用いただき進めていただいている櫛旅と町カ塾について議論していきたいと思っております。まず、櫛旅から進めていきたいと思っております。</p> <p>委 員</p> <p>10月15日に雨天の中、校区の皆さま方のご協力のもと、マコモタケの定食などを販売させていただいたり、音楽演奏会、公民館でのイベントブースも充実していました。雨の中でしたが、ウォークラリー参加者は約160名で、まこも定食は150食分準備し130食売れました。櫛旅のマップにつきましては、北部活性化プロジェクトで小委員会をつくって検討している途中です。制作途中ですが26日北部活性化プロジェクトで進行状況を報告していきたいと思っております。</p> <p>会 長</p>	

雨の中櫟旅がたくさんの人で賑わっていたのに私も驚いたのですが、参加された皆さまからお気づきの点などございましたらお願いします。

委員

櫟旅は何回か続けていて今後も続けていくことが目標であるかと思いますが、メンバーが藤山委員に掛かりきっている部分があり藤山委員の負担がかなり大きいのかなと思っています。今後、それを分散してフットワーク軽く続けられるような櫟旅であってほしいと思いました。

委員

色んな告知をしていますが、40代、50代くらいの方々が意外と来られてなかったと思います。幼稚園、小学校の保護者の皆さまはご存知で、70代、80代の方も来ていただいていた。理想としては櫟本の住民全員が来てくれる人をお迎えする形が一番理想的かと思っています。ですので、今年も開催されるかと思いますが、周知の仕方を工夫していければいいかなと思いました。

会長

マップの今後の活用も含めて周知の仕方について検討していければと思います。続きまして、町カ塾と夢応援プロジェクトについて報告をお願いします。

委員

町カ塾については、前回の会議でもお伝えしましたように、4～6年生対象に開催しており、毎回10人以上来ていただいています。今、6年生を対象に夢応援プロジェクトということで、今日もパティシエールをマリアージュさんで子ども達が体験しています。先般、資料にもありますように朝日新聞、奈良新聞に衣装作家の魚谷さんに来ていただいた内容が掲載されました。昨日も櫟本幼稚園で保育士の体験も行いました。明日は丸谷動物病院で獣医、トリマー等の夢をもった子ども達が体験する予定になっています。子ども達が夢を叶えるには、まず町カ塾、櫟旅イベントに参加しポイントを貯めて、そのポイントの高い方から順番に夢の申請をしてもらい、今回は5つに絞って応援しています。今後ですが、実際に講師とかへの謝礼などが費用的に掛かってきています。町カ塾プロジェクトに予算がないため区長会に助けていただいています。子ども達の夢応援を今後続けていくために、子どもゆめ基金助成金というのがあります。それに申請を出して最高額50万円ですが申請していきたいと思っています。その内容は今までは櫟旅チケットをポイント化した「櫟旅ポイント」、町カ塾にいくと貯まる「まちかポイント」これを合算して「まっちポイント」という夢応援のためのポイントを作りたいと思っています。『櫟本こども夢応援プロジェクト』発足について本日この会議で承認をいただけたら、申請していこうと考えています。こちらの申請は行政がかかわっていると申請できないものになっており、地域主導の団体が申請する必要があります。そのためには会則も必要になりますので、その辺りを説明したいと思います。

委員

ポイント制というのは元々地域通貨という形で提案をさせていただいたと思いますが、今回は形を変えて子ども達の夢を実現しようという題目があって、そこに色々な事業におけるポイントを付けていって、それを集約して子ども達の夢を応援していこうという形に変換させていただきました。「櫟旅ポイント」というのは櫟本校区でおこなわれているイベントで櫟旅チケットを配っていただいて、イベント内でチケットを使うことも出来るが、使わなければ「まっちポイント」に交換ができます。一つの軽い地域通貨のような形です。「まちかポイント」は町カ塾に参加したらもらえる形ですが、今後は老人福祉施設での歌の会など、地域が認め学校行事としても認められた事業に対して子ども達が協力したらポイントを貯めることができる。この2つだけで最終的に「まっちポイント」に換算して子ども達の夢応援に繋げていくという形を考えています。続けていくにはお金がかかってきますので、地域におんぶにだっこではしんどいので、基金に申請して通れば、もう少しお金の使用範囲も広がっていくのではないかとということで会を作り活用していこうとなりました。今回、『櫟本こども夢応援プロジェクト』発足に向け、役員として相談役に尾関区長会長をお願いしています。代表は森田さんがしていただき、副代表は名倉さんと近藤がさせていただきます。事務局はいきなり誰かに振るのは大変なので近藤がする予定をしています。申請がとりましたらまたこちらの協議会でも報告をさせていただきます。運営委員については学校のコーディネーターさんになっていただく予定です。来年度は申請がとおればそこで、町カ塾の講師代、夢応援の先生への謝礼を全て含めて申請する予定です。櫟旅ポイントは櫟旅チケットとしてイベント主催者に100円で買っていただきたいと考えています。子ども達が櫟旅チケットを使わなかったらお金が浮いてくる状態になります。そのお金を事業の資金に充てたいと思っています。将来的には櫟本で行われている全てのイベントや子ども達が良い事をしたらあげてもらえるシステムができていけばより子ども達を応援しやすいなと思っています。

委員

かなりおもしろい取組みなので持続をどうするかが問題かと思います。子ども夢基金助成金は何年か連続で取れたと思いますので、何回か応募していけばいいかと思います。他にも、地域の子ども関連の事業はいっぱい出ていますので、一度その辺りも見られて、連続して取れるように次の段階のことも考えていけばいいと思います。ただ、国や行政の施策だけでは持続可能にならないので、そこをどうするかということを今後検討していただかないといけないかと思います。

会長

今、色々工夫していただいていますので、地域のイベントを自分事として取り組んでいただける方が増えてくるのかなと思っていますし、この事業は続けていただきたいと思っています。最初から行政が事業をとることになると、地域の面白い取組みのところがなくなってきてしまうので、そこはぜひ地元の中で色々な関与して頂ける方や出資して頂ける方と、外部の助成金とをうまくかみ合わせて持続可能な体制作りをお願いしたいと思います。

委員

地域子ども教育推進事業というものもありますし、色々なものがメニューとしてあると思いますので、文科省だけでなく、違う面からも申請できると思います。

会 長

町カ塾の参加率であったり、地元の皆さまの支えていただき方というのは今、市内の校区でも突出しています。中心になってやってくれる方がいて、校区が全面バックアップをしていただいて、さらに校長先生をはじめ学校の先生方がその気になっているからできていることで、そのエネルギーを本当に大事にしたいと思っています。しっかり取組みが進んでいく中で相談していければと考えています。

それでは、本街づくり協議会として『櫟本こども夢応援プロジェクト』発足について承認するというのでよろしいでしょうか。

【全員承認】

それでは、今後ともよろしく願いいたします。それでは、次の議題にいきたいと思います。トラックマルシェの報告をよろしく願いいたします。

委 員

昨年11月3日に高井病院の駐車場をお借りしまして、第1回トラックマルシェを開催しました。資料P4にもありますように、会場内は凄いにぎわいでした。出店数は約15店舗で、開催と同時にたくさんの方々に来ていただき15～30分でほとんどの商品が売り切れだす状況でした。企画段階では200人くらいを想定しており、300人きたら御の字だと思っていましたが、実際には倍の約600の方が来られ、オープンと同時に売り切れ続出となりました。今年は11月4日に開催する予定です。昨日も会議がありました蔵之庄町活性化協議会の方で、今年はいくらかバージョンアップした形で開催しようという話にはなっています。

会 長

地域主導のマルシェを開催していただき、市としてもありがたいと思っております。ぜひ今後もよろしく願いいたします。何かトラックマルシェについてご質問等ありますでしょうか。

委 員

600人も来られたというのはどのように周知されたのでしょうか。

委 員

周知につきましては、手書きのチラシを作りまして、公民館とか蔵之庄町近隣の店舗、高井病院さんとかにチラシを置いていただいたのと、公民館便りにも掲載していただきました。早めにチラシを作って配ったのもありますし、会場に何時トラックマルシェがあるという掲示を開催の5日前に貼らせていただき前を通る車などに事前告知、PRをしました。

(2) モノづくり

会 長

議題の2番目のモノづくりにいきたいと思います。まず、マコモタケの発信ということで、最近様々な展開もありましたので、ご紹介と意見交換をできればと思います。まずは事務局から報

告をお願いします。

事務局

和爾営農組合さんの方で生産されています、マコモタケの活用について、資料5の写真をご覧ください。昨年、マコモタケののぼり旗を作成し、櫛旅などのイベント時や栽培から収穫まで圃場に設置しました。マコモタケの名前は知っているが、実際どのようなところに植わっているのか、どのようなものなのか分かりにくいということもありましたので、PRし知っていただくためののぼり旗を作成しました。また、昨年、和爾営農組合さんの方から学校給食で使う事ができないかという提案をいただいておりますが、学校給食のハードルが高く今年度実施できませんでした。来年度は早くから学校教育課と連携し、実現できるように取り組んでいきたいと考えています。他にも、パークサイドキッチンさんや洋食のカツイさん等でも使っていただけるように進めていきたいと考えています。天理市内の京都王将さんで昨年、てりりなまーぼという天理市産のナスとトマトを使った料理を提供していただきました。その京都王将さんからマコモタケを使用してみたいという意向を聞いていますので、こちらからもプッシュして使用して頂けるように動いていきたいと考えております。資料6～10ですが、婦人画報という雑誌にSUGALABOというレストラン経営をされている須賀シェフがいつも食材の関係の記事を載せられているのですが、その方が、コフンをデザインされた佐藤オオキさんと知り合いで天理市に来ていただき、天理や奈良県の食材の記事に載せてみたいという意向を示されましたので、農林課も協力しましてこのように記事になりました。その中に、和爾営農組合が作っていただいているマコモタケが特集され古川委員も載っております。高級感あふれる雑誌ですので、マコモタケのPRになったのではないかと考えております。

会 長

こういった婦人画報で取り上げられているものを実際の店舗で使っていただくという流れに変えていきたいと思っております。

委 員

今現在は、中華料理コトブキさんと秋田屋さんで買って貰って提供していただいております。もっと増やしていけて皆さんにプロの料理を味わっていただければいいなと思っております。

会 長

櫛本のみならず天理市中でマコモタケをさらにメジャーにしていければと思っておりますが、何か提案やご意見ありますでしょうか。

委 員

この取組みが始動して約3年でだいぶ動いてきたなと感じますが、これが特産品としてどれだけ広がっていくのかということだと思いますので、発信の仕方について婦人画報も一つだと思いますが、これを機会にもう少し上手く発信する方法が大事なのかなと思っております。

会 長

特に食べる機会を創出するのが非常に重要なと思います。今2店舗で使っていただいているとのことですが、さらに増やしていければと思います。マコモタケにつきまして引き続き頑張っ
て行きつつ、樺旅などの機会にも活用いただければと思います。その他、市内農業関係のさまざま
な取組みもありますので、農林課の方から紹介させていただきます。

事務局

北部では和爾営農組合様などももちろん頑張っていていただいておりますが、他の地域の団体の活
動にも興味があるというご意見を前にいただいておりますので、ご紹介します。

【スクリーン写真表示】

まず、南檜垣営農組合さんです。こちらは元々、麦や大豆などの集荷組合からスタートした営
農組合ですが、現在に至りましては、独自のお米や農産品作りを進めておられます。最初に味間
芋ですが、こちらは里芋の一種ですが粘り気が強く美味しい芋で、南檜垣営農組合さんの一押し
の食材であり、熱心に販売されています。次は青大豆で、あやみどりという名前が付けられてい
ますが、この青大豆を使いまして色々な加工品を手掛けておられます。次は大和ひみこ味噌です。
南檜垣営農組合さんで生産されました大豆などを使われた味噌です。加工に関しては南檜垣営農
組合さんと提携しておられる製造メーカーさんが作られて独自にルートを開発され販売されてい
る商品です。次は、青大豆で作りました絹ごし豆腐です。これも独自で試行錯誤されて作られた
味の濃い美味しい豆腐です。青大豆の豆乳も販売されており、天理駅前のコフフンショップでも
取り扱っていますので、一度お飲みいただければと思います。次ですが、農業以外にも子ども達
の味噌作り体験など農業学習という点で地域の子も達に味噌の作り方を教えておられます。次
は、マルシェ等で売られている野菜などになります。

続きまして、北部地区には他にも農業をがんばっておられる方がいらっしゃいます。樺本町で
バラを作られておられる、吉本さんです。この方のお父さんが昭和47年頃からバラの生産を手
掛けられまして、数々の品評会でも優秀な賞を納められております。25万本前後のバラを生産
されており、お父さんから息子さんへと親子二代にわたってがんばっておられます。吉本さんが
生産されたバラは関西地区の有名なホテルのレストランなどとも提携されており高級感溢れる場
所でも使用されています。この地域で頑張っておられる方ということで紹介させていただきました。

先程少し触れました、南檜垣営農組合さんの話に戻りますが、今年度に和爾営農組合さん、下
山田営農組合さんなどと一緒に集落営農組織連絡協議会を立ち上げられました。集落営農に取り
組んでおられる方が中心となって、もっと市内に集落営農組織とか地域づくりの団体を増やして
いこうと協議会を立ち上げました。色んな情報交換などを通じてもっと天理市内に地域ぐるみの
営農活動を営めるように広がっていければということで皆様がんばっておられます。

会 長

市内も放棄地や後継者不足の問題がある中で、今回連絡協議会ができたことは素晴らしいこと
だと思っています。それぞれに6次産業化や農産品を作っていただきましたら、都会でも非常に

商品力があるということが実証されていますので、共有しながら各地域の取組を全体の力に繋げていきたいと考えております。この案件に対してご質問などございますか。

委員

昨日、蔵之庄町活性化協議会をしております、ソフト面は充実してきている中で、細く長くしていくのは非常に難しいことだと思います。色んなところでイベントをしてきましたが、やろうと思った時はみんな力が入るので、出来るだけ継続していけるようにしたいと思います。次の段階で本当の街づくりを考えていく中で、困っているのは若手が出ていっていることです。人が出ていっているので空き家も出てくる、その対策をどうしていくのかという中で、小さいところから出来ることからもう一回勉強、研究をしていこうとなりました。その中で、働くところがなければ住まないだろうと、空き家もありますが遊休地もたくさんあります。その問題も含めて意見が出たのが、これだけ土地が空いてきているので何とかできないかという中で、ブランド、モノづくりということで、農業関係の何かを作っていけば、他所から何か作りたいと来られたりするのではという話をしていました。蔵之庄町も今年から研究と勉強していくために資料集めが一番大事になってきますので、今説明あったような資料をいただきたいです。それと、県内でも色々活動しているところがあれば、また貰いにいきますので準備していただきたいです。

事務局

他の優良事例集とかをこちらでそろえておきます。もし営農組合さんとかと直接お話しを聞かれないのであれば農林課へお声掛けください。

会長

地元の営農組合なら安心して使っていただける、農地中間管理機構が埋まっていくのは誰かわからない人に貸した場合、地元で理解を得られないことを心配される方が多く、借りたい方がいても、貸したい方が不足しているのが実状です。それからすると地元主導というのは話が進みやすいでしょうし、今までお勤めされていて農業されてなかった方が就農されるというケースが実際に組合の中で出てきていますので、その辺も含めて、古川委員もおられますので、是非検討いただければと思います。先程のバラの事例もありますが、売れる商品を作れば売れる。奈良県内では平群町とかが突出して農業の収益が高いエリアがあります。平群町さんは菊です。儲かればされるし、継がれるし、色んな方が他所から来られる。儲かるモノを狙っていくのが必須になるのかなと思いますので、継続して意見交換していければと思います。

委員

それを進めていくなれば、ちょっとしたことでもお金がかかってくると思います。調査、研究に使える助成金を出来るだけ使っていきたいこととか、行政に頼らないと出来ないことが多々あると思います。

会長

近畿農政局の方でも色々メニューもありますし、その辺りの橋渡しだとか、市としても今後稼げる持続的な活動をするための初期投資については相談し検討していければと思います。

委員

そういった点でも相談にのっていただきたい。こんなところに行けばこんなのがあったか私達の知らない色々な情報を教えてほしい。その中からどうしようかと考えていこうと思っています。

会長

次にブランディング、モノづくりについても最新の状況を共有させていただきたいと思います。

事務局

昨年に引き続き本年度もモノづくり事業者様を応援する意味で3事業者様を選定させていただきました。丹波屋善康さん、山崎商店さん、山中農園さんを選ばせて頂きました。櫛本では丹波屋善康さんが選ばれました。現在の状況は、今までは寺社仏閣への販売をメインとされていましたが、一般向けの商品開発と一緒にパッケージも一新しようということで graf と打合せを重ねておられ、完成にはもうしばらくかかるということになっております。昨年度も、森田アロエ本舗さんにも参加いただきました。事業者さんの方からはパッケージをデザインすることで付加価値が加わり、消費者の方から評判が良いという声を聞くようになった。また、メディアやマスコミで取り上げられることから遠方からの問い合わせがあったり、わざわざ店まで買いに来られたという声も聞いております。このように、今後も商品開発して終わりではなく販路も広げていきフォローアップをしていきたいと考えております。

会長

昨年のもものと合わせると6品目になります。また、皆さまと東京ですとか販路の拡大を来年度しっかりやっていきたいと考えております。森田さんも既にさせていただいておりますが、何かお気づきの点などございましたらお願いします。

委員

昨年度、モノづくりに参加させていただいて、良い商品ができました。気づきというか、実際に自分の商品を自分でデザインして極力安く作って安くお客様に提供したいという思いで長年やってきましたが、昨年 graf さんに関わりまして、素晴らしいパッケージデザインを作っていただきました。ブランドの大切さを勉強させていただきました。良いモノを安く売るためじゃなくて、ブランドを作っていく、「アロエモ」という名前の化粧品を出していますが、そのアロエモというブランドをもっと知っていただかないといけないという思いを気づかせていただきました。

会長

できるだけ多くの事業者様にも広めていければと思っておりますのでよろしく申し上げます。ブランド、モノづくりについて何かご意見ございますか。

委員

北部活性化プロジェクトの中で、在原業平が825年生誕ということで、読売ならライフに妖怪研究物語というのを企画されている亀井さんという方がたまたま、昨年の8月に在原神社の掃除をしませんかということ載せていただいたことを受けて、市場の方で椅子の設置をしたりしました。4月26日が業平祭という形で毎年しておられます。その一週間前に掃除しましょうと

いう形になりました。そのようなことを含めて、在原業平と柿本人麻呂の二大人物が櫛本で生まれ育った方で、業平が2025年に生誕1200年を迎えることなどをふまえて、櫛本の名の下に人麻呂と業平の生誕の地という形で商品化をしていただけたらいいのではと思います。

会 長

櫛本町で業平とか人麻呂にちなんだ商品やモノづくりがないような気がします。勿体ないというのはおっしゃる通りと思います。何か進めていけるような部分があればいいですが。

委 員

人麻呂製菓というのはありますが、大々的にはやっておられない感じです。櫛本町というところは何もしなくても人が集まって来た歴史があり、地理的な面で人が集まっていた。ですが、明治からはずっと職人の町であり、それが原点だと思います。そこから昭和30年くらいまでは色んなところから人が集まってきて、色んなものが売り買いされ商売が発展したという町です。その中で、大型店舗が出てきたため、櫛本町はさびれていき人が集まって来なくなった。今現在、山の辺の道を若い人がずっと活性化に向けてもっていつてくれているのが大変嬉しく思っています。先程から出ていますが継続というのが一番の問題点です。あと、農業でも後を継いでいただくことです。櫛本公民館まつりで売っている櫛本の味噌が美味しいとあちこちで言われるのですが、その日に完売してしまったら終わりですその後はないですかと言われます。櫛本の味噌を活かしていくのも一つの方法かと思います。色々がんばっていただいているので、続けていただきたいと思います。

会 長

今、仰っていただいたように、持続可能性というところからすると買っていただける、儲けていただく、儲かるからますます頑張る。この流れが必須なのかと思っています。2025年が業平の生誕1200年ということでそれに向けても色々検討していく中で、櫛本の目玉になる商品が出てくるようなことを協議会の中でも取り上げていければと思います。

(3) 周遊観光

会 長

次にノルディックウォーキングなど様々なウォーキングイベントを最近おこなっておりますので事務局の方から報告をお願いします。

事務局

資料P11、12になります。+1dayウォークにつきまして、11月27日に北部を中心に周っていただくイベントを誘致させていただきました。まほろばウォークという本当は土日の二日間ですが、せっかく来てお泊りいただいたのもっと地域をめぐって貰いたいということでぜひ来てくださいと誘致させていただきました。その中で、北部活性化プロジェクトの皆さまのご協力を得て地域の紹介を中心にしていただきました。また、和爾町の野菜を使った芋汁のふるまいや営農組合さんの農産品の販売もしていただきました。北部の取組みを皆さんに知っていただきました。人が来ていただくことで地域の産品を紹介し、また商売に繋がる機会に少しでもな

ればということでもさせていただきました。ノルディックウォークの方ですが、歩き方の一つとしてノルディックウォークを天理市内に広めていきたいということで、今まで3回させていただいてまして、朝和町の三木スポーツ商会さんが中心になってされている取組みと一緒にさせていただいている取組みになっています。その3回目が1月27日に北部を巡るイベントということでもさせていただきました。その際に健康キレイというテーマで、いかに歩くこととキレイというものを結びつけるかということで、樫本公民館で森田アロエ本舗さんのワークショップ、化粧水、ハンドクリームの販売をしていただき、北田源七商店さんのまこも茶の試飲ですとか、おひさま弁当さんの古墳クッキーのお土産というのもさせていただきました。また、北部には高井病院内にタニタ食堂さんがいますので、そちらの協力も得ましてタニタ食堂で昼食をとっていただきました。病院内では理学療法士さんによるレクチャーも実施させていただきました、樫本にはこのような資源があることを知っていただく機会になったと思います。北部の皆さまのご協力の中でさせていただいたということで、これからもよろしくお願いします。

会 長

参加者の皆さんの声はどんな感じでしたか。

事務局

多くのものを買っていただきました。また、皆さんの声からは、樫本を知らなかったのもこの様な機会に知ることができてよかったと聞いていますし、こんな商品があるんだということも知れてよかったという声も頂いています。

会 長

山の辺の道が石上神宮から南だとういう固定観念があった中で、ルートとしての認識をしていただくところにハードルもありましたが、実際に周っていただけたら十分に満足していただき立寄っていただけるスポットがあることが確認できてきていると思います。これがイベントの日だけでなく日常的なルートとして定着するところにもって行ければと考えています。その中で、蔵之庄町にも観光案内板をとという話を以前いただいておりました。

委 員

蔵之庄町の案内看板設置については、予算計上していただいており、議会の議決を得れば設置できるという状況になっています。帯解駅から南へ向いて歩かれる方はかなりの数おられます。東側にお住まいの方も従来以上に和爾下神社を見に来る人が増えたと聞いています。また、イメージ的にサムライ街道という名前がどのように皆さんに伝わっているか、それもこれからの一つの売りと思います。あと、六地藏さんも和爾町のお寺さんの中にある六地藏さんが従来の六地藏さんとお聞きしています。

会 長

奈良から南に人に来ていただくためにも、玄関口としての樫本が重要とっております。予算が付けばどのような看板にするか、蔵之庄町の方々と検討していきたいと思っております。今周遊観光で色々と現状の紹介をさせていただきましたが、今後の方向性などについて何かご意見あります

でしょうか。

委員

担い手と持続可能の問題というのは、まちづくりではいつも重要なテーマになっており、なかなか悩ましいところがあります。樺本は凄く資源がある町で、価値があって住んでいる方でもその価値がわかってない方もいて、周りの人が逆にこの町の持っている価値を改めて知らしてくれる。まちづくりは最近上手くいっているといわれている場所はよそ者をどう巻き込むかというところがあり、懐深く巻き込んでいくところは元気なところが多いです。そういう意味でいうと、町力塾などで子ども達を育てるとするのは次の街の主体を育てる意味ですごく大事なのですが、時間軸が必要になってくるので、その子ども達が中学生、高校生になった時にこのまちづくりにまた関わってもらう機会を作るのが一つです。もう一つは、よそ者をどんどん巻き込む力、外の人がこの街に来る。ただ、イベントは一過性のものなので通過人口になっているので、交流人口にしないとそこに人が溜まっていかないということがあります。定住ばかりだけでなくかつ通過だけでないその間をまちづくりの中でどのようにデザインしていくか。最近では、暫住とって、少し住んでみるとか関わってみる、泊まってみるという、もう少し街に触れる機会を作る人をどれだけ増やせるか。この街いいなとって結果的に定住に繋がったりとか、ある時期住んでみたりとか、そういった幅広く街に関わってくれる人を増やすことをしないといきなり住んでといってもなかなか住まないの、これだけ色んなイベントもされていて人材も資源もあるので、そういう段階的な広がりを持つまちづくりをしていけばいいのではと思います。

会長

空き家の利活用についても、来年度空き家コンシェルジュと連携しながらと考えていますので、滞在場所の確保とかも課題になってくると思います。

委員

今の国会の法案で空き家の規制緩和、いわゆる建築基準法の緩和がおそらく通ると思います。そうすると、今まで100㎡で用途変更が必要だったのが200㎡まで引き上げれるので、結構使いやすくなると思います。空き家の約9割の戸建てが建築確認申請いらなくなります。今の空き家を観光など色んな活用がしやすくなるので、戦略的にそういうのを上手く活用されれば非常におもしろくなると思います。

会長

高原の山田町の方で、空き家を無人販売所とかにされた事例もでてきていますし、校区との連携協力が大事になってくるかと思っていますので、ぜひともその辺りは今後よろしくお願いします。

(4) その他

会長

今年の9月に行われる、なら国際映画祭のオープニング作品が河瀬直美監督プロデュースのイラン人のアイダ・パナハンデ監督の撮影ということで、10月に天理市内でやりました撮影は終わり、今は編集段階と聞いています。特に米杉建設様で重要な舞台を撮っていただきました。

委員

2週間程撮影がありましたが、本当に大変でワンシーンで5時間掛かりました。高井病院をはじめ天理市内の色んなところがたくさん映っていると思いますので、是非とも一度観ていただきたいと思います。

会長

いずれの案件もまだこれからが本当の意味での勝負だと思っておりますので、ぜひお気付きの点がありましたら仰っていただければと思います。櫛本の一部の人達ということではなくて、子ども達も含めて櫛本の校区の住民全体が盛り上がっていただける流れを作っていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願いします。次回の日程については、今動かしていただいているそれぞれのプロジェクトの進捗の状況を見て調整させていただきたいと思います。それでは、本日も長時間に渡りまして本当にありがとうございました。

5. 閉会 -20:00-